

番号	句	住所・氏名
175	春に入る日ざしに風の尖りけり	大津市光が丘 大橋 幸恵
174	人懐み人なつかしみ春を待つ	
173	スキップの笑顔残して枯葉道	
172	日溜りの日の匂ひけり野菊映く	
171	歌金の余音に涙り暖かし	
170	春の雨湖の景色を遠ざけて	
169	遠山も麓の一帯も紅葉晴	
168	回想は行きつ戻りつ長き夜	
167	昔のなき雨を見つめて冬ごもり	
166	老の胸湧る言の葉をぬくし	
165	春にまだ湧るときめき薄葉ふむ	大津市黒六 宮崎 正子
164	六十年共に駆け抜け虎落首	
163	北風のどこか風にも靡かな	
162	ひだまりや鳥籠こぼれて冬雨	
161	口の開くあかがり劣はる夫のいて	
160	一茶忌や昭和歳時記懐ひぬ	
159	添え書きの責状「おいとま」わびしけり	
158	元日や鏡身凍る能登地蔵	
157	書初めの一字「健」と焦らずに	
156	雪の葉をしかと抱きしめ花ハツ手	
155	舞を見せ舞へ舞る百合輪	
154	御降や傘をささうかさそまいか	
153	今此処の何にしようかシクラマン	
152	路地尾花鏡に揺らぐ美香蓮	
151	幸運な米の祝や文化の日	

番号	句	住所・氏名
200	奥庭庭園静寂くあり山籠る	大津市高畑町 四方 よね子
199	落葉踏む乾いた音のはずみけり	
198	拾子木の音遠きとほり冬に入る	
197	冬木立薄日を待たる句住庵	
196	大津やバスで遊園の中学生	
195	鳥蹴る琵琶湖の小さき船着き場	
194	運夜降り涙も水る屋合酒	
193	初雪や比良権銀糸を置くごとく	
192	伊勢海老の生くるがままに背を割ら	
191	清灯に埋火匠のと灯りけり	
190	朴の葉の風沈むごと薄ちにけり	草津市若草三 井上 次雄
189	掃き終へて又散りかかる薄葉かな	
188	鐘の音の余韻の中の除夜節	
187	初詣合格折願の絵馬あふる	
186	いくたびも噴煙吐いて山眠る	
185	ひと年を振り返り返り聞く除夜の鐘	
184	四角とも丸き心にする炬燵	
183	家電呼ぶ音を遠くに炬燵酒	
182	唐獅子むや家に伝はる輪島塗	
181	遠山に光るは雪かなほ余雪	
180	充電をした子見送り七日粥	
179	靴と履道み合っているお元旦	
178	お降りの何も遠ざさずぬめけり	
177	ペランダより深々押む初日の出	大津市園分一 藤堂 隆司
176	花吊りに折り掛ける能登の地へ	

番号	句	住所・氏名
225		大津市秋葉台 村田 陽子
224		
223		
222		
221		
220		
219		
218	春奈子居士の匂ひも故里の味	
217	ちろろ啼く無人の駅に旗ノート	
216	手摺帳「あなたがたどこさ」肥後達し	
215	袖子風呂や袖子がタントン肩たたたく	大津市大堂 松田 和子
214	冬満月きつと式部も石山で	
213	余光引き雁や薄ちゆく山の端へ	
212	チヨコをポン縮張れば鳴る除夜の鐘	
211	福やかや夫と一服福沸し	
210	精進く北窓雪し閉じおけり	
209	大と音と薄葉しぐれとシャンソンと	
208	香の塵ひらり一葉紅もみじ	
207	秋夕べ未く除まりし琵琶湖かな	
206	霧の朝手をとり歩む二人かな	
205	紅葉の散り敷く庭や東福寺	
204	ふかし芋畑張り笑みのこぼれけり	
203	思案してじつと見つめる秋刀魚かな	
202	コスモスの大きくなくびく無人駅	
201	星の名をたしかめ二人指さして	